

4. 基本方針

1) 産業振興

【将来像1】

稼ぐ力で活力を生み出す持続可能な地域を目指して

- 北部地域は本来、沖縄県の中でもその特徴を色濃く残した地域であり、温暖な気候や豊かな自然環境、これらに育まれた産物が豊富にある。こうした優位性を持つ地域で、わが国の中でも恵まれた資源を有している地域といえる。
- 新たな北部振興事業においては、地域の特色・強みを生かした産業振興で競争力強化を図り、効果的に域外から稼ぎ、効率的に域内で富を循環させる地域経済構造を構築し、持続可能な経済社会を目指す。
- 北部地域で強みのある建設業や観光産業（宿泊・飲食サービス業）、得意な産業である農林水産業、これまで雇用効果の高かった情報通信産業などを軸に、稼ぐ力を高めるとともに地域内での循環を生み出すため地域内の産業の連携を強めていく必要がある。
- 北部地域の稼ぐ力を高め、好循環を生み出していくには各産業分野を体系的につなぎ、全体をみながらコーディネート・マネジメントしていく必要がある。
- 市町村民所得の向上を目標とした地域の稼ぐ力と地域内経済循環の活性化を目指す。

2) 定住条件の整備

【将来像2】

やんばるの魅力に囲まれ住み続けたい地域を目指して

- 北部地域は、自然環境の豊かな地域で、地域のコミュニティの結束力が強く「ユイ（結）マール」の精神でお互いに助け合い伝統文化を大事にしながら、おおらかで心の豊かな社会を作ってきた地域である。長寿地域として国際的にも知名度が高く、居住地として魅力のある地域である。
- 新たな北部振興事業においては、地域の魅力に磨きをかけるとともに、暮らしの安全・安心、利便性の向上を図り、人口の流出を抑えるとともに、多様な世代のUターンやIターンなどの人の流れを創り、住みたい、働きたい、訪れたい地域を目指す。

- 今後の定住環境づくりに関しては、急速に進む技術革新によりもたらされる Society5.0 の実現、SDGs、with コロナ、アフターコロナなどに対応した新しい取り組みを進めていく必要がある。
- こうした新しい考え方や最先端技術を活用し、自然環境や人間力など、やんばるらしさを生かしながら社会課題の解決を進めていくには、地域社会全体をみながらコーディネート・マネジメントしていく機能が必要である。

3) 横断的な取り組み

【横断的な取り組み】

SDGs、Society5.0、with コロナ、DX(※)など新しい社会潮流と技術革新への適応、トータル・コーディネート等 仕組みづくりのための横断的な取り組み

- SDGs を軸とする持続可能な開発目標、Society5.0 の実現に向け AI や Iot など急速に進む先端技術を駆使した革新、すなわち DX（デジタルトランスフォーメーション）などへの適応が必要である。さらに、with コロナ、アフターコロナの新たな生活様式、経済のV字回復に向けて専門家や関係機関が連携した横断的な取り組みで、多様な人々の想像力、創造力を融合し課題解決を図っていく必要がある。
- 一方で、政府が進める地方創生においては、観光地域経営を担う「DMO」と域外マーケットを開拓する「地域商社」の形成が示されている。DMO と地域商社が両輪となって、地域の商品・サービスを一元的に域内・域外の市場へと拡大させていくことで、地域全体の平均所得を向上させ、若年層流出を抑制する良質な雇用の創出を実現するなど、地域のブランド化や稼げる地域づくりのためのコーディネート機能の必要性を上げている。
- これらのことから、北部振興事業の推進にあたっては、12 市町村の利害関係を越えて北部地域全体を客観的な視点から、また、かじ取り役となって進めていくトータル・コーディネート機能の重要性はますます高まっている。

【今後適応が必要な新たな社会概念】

①Society5.0 の到来と社会基盤整備

- ・Society5.0 とは、狩猟社会 (Society 1.0)、農耕社会 (2.0)、工業社会 (3.0)、情報社会 (4.0) に続く新たな社会像。
- ・Society5.0 で実現する社会は、インターネットを通じて全ての人とモノがつながり、これまで分断されていた様々な知識や情報が共有され、今までにない新たな価値を生み出す。
- ・人工知能 (AI) により、必要な情報が必要な時に提供されるようになる。
- ・ロボットや自動走行車などの技術で、少子高齢化、地方の過疎化、貧富の格差などの課題が克服される。
- ・こうした society5.0 の到来に向け、社会基盤の整備、技術導入、人材育成などが必要となる。

②SDGs の実現に向けた取り組み

- ・SDGs (Sustainable Development Goals 持続可能な開発目標) とは、2015 年 9 月の国連サミットで採択された「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のための国際目標。
- ・SDGs では、地球上のすべての国々や人々を対象に、経済・環境・社会の諸課題を包括的に扱い、相互につながり、関係する 17 のゴールと 169 のターゲットで構成されている。
- ・SDGs の広がりにより、個人の日常生活から事業活動、市民活動など様々な場面で 17 のゴールに向けた行動が求められる。

③新型コロナウイルス感染症を踏まえた新しい生活様式への対応

- ・新型コロナウイルスの感染拡大防止に向け、「新しい生活様式」に基づく社会経済活動や個人の行動の変容が求められている。個人の基本的な感染防止対策を含め、働き方の新しいスタイルや、社会インフラの在り方など変革が求められている。

④DX(デジタル・トランスフォーメーション) (Digital Transformation)

- ・「デジタル・トランスフォーメーション」という概念は、スウェーデンの大学教授のエリック・ストルターマンが提唱した概念で、「ICT の浸透が人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させること」であるとされる。。

④安心・安全な暮らしづくりに向けて

- ・少子高齢化社会の到来を受けて、健康・医療・介護の重要性がますます高まっている。
- ・地震や気候変動の影響により自然災害リスクが高まっており、これに対する地域の防災機能強化が必要となっている。
- ・多様性や個性を尊重し、互いの違いを理解し、認め合う共生社会の実現が求められている。

⑤グローバル化の進展と地域の魅力づくり

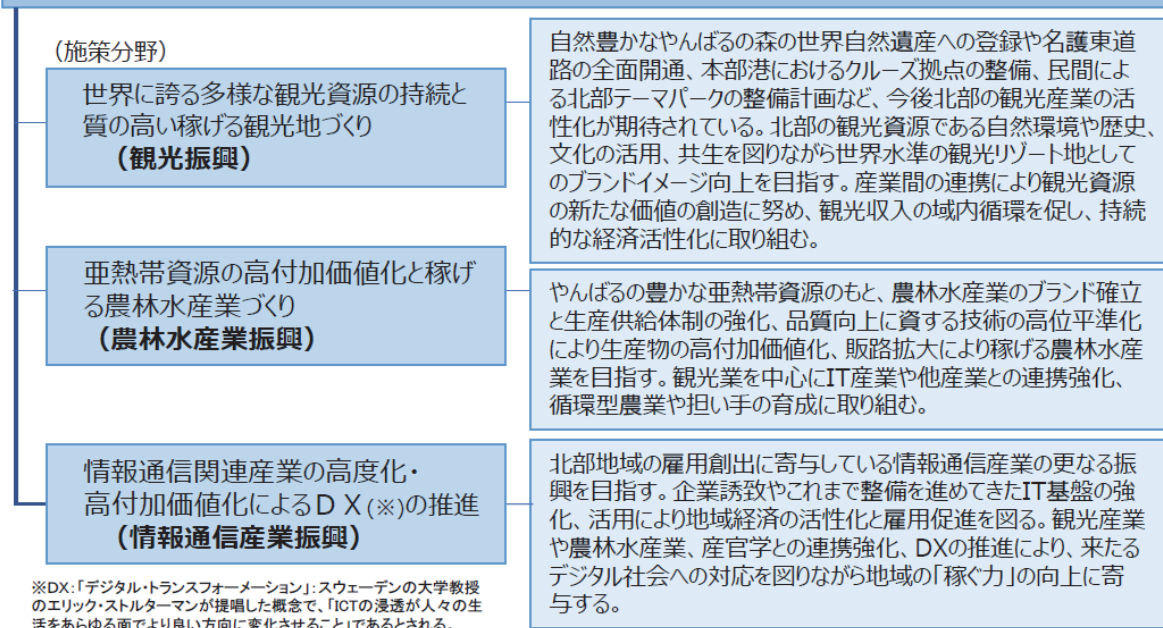
- ・沖縄においても外国人観光客の急速な増加にみられるように、経済社会のグローバル化が急速に進んでいる。アジアのダイナミズムのなかで、沖縄は優位性と潜在力を有しているとされ、その中でも北部地域は沖縄の魅力の色濃く残す場所である。大きな時代潮流のなかで、こうした魅力を失うことなく、地域の魅力を強みとして活かしていく必要がある。

5. 施策の方向性

1) 産業振興施策の方向性

- ・ 施策の方向性については、産業振興の「将来像 1 稼ぐ力で活力を生み出す持続可能な地域を目指して」を基に、施策分野、施策の展開を下記にまとめる。

将来像 1 稼ぐ力で活力を生み出す持続可能な地域を目指して



【施策分野】 観光振興

①世界に誇る多様な観光資源の持続と質の高い稼げる観光地づくり

- ・ 自然豊かなやんばるの森の世界自然遺産への登録、テーマパークの開園により今後北部の観光産業の活性化が期待されている。北部の観光資源である自然環境や歴史、文化の活用、共生を図りながら世界水準の観光リゾート地としてのブランドイメージ向上を目指す。
- ・ 産業間の連携により観光資源の新たな価値の創造に努め、観光収入の域内循環を促し、持続的な経済活性化に取り組む。

【施策の展開】

(ア) 豊かな自然の魅力を満喫する場の提供

- 自然とのふれあいや体験をとおした資源の高付加価値化
- 自然環境を活かしたワーケーション等による滞在促進
- 自然の価値を高める景観や環境整備
- 世界自然遺産の適正な保全と活用

- やんばるの自然の価値を伝える質の高い観光ガイドの育成

(イ) 多様で個性ある伝統文化の発信

- 多様で個性ある伝統文化のガイダンスをとおした資源の高付加価値化
- やんばるの歴史文化の価値を伝える質の高い観光ガイドの育成
- 地域ブランドの基礎となる歴史・伝統文化等の情報発信

(ウ) 温暖で風光明媚なスポーツコンベンションエリアの形成

- 年間をとおした多様なスポーツ・キャンプ・大会誘致
- スポーツをとおした交流・滞在促進
- 自然環境を活かしたスポーツ・レクリエーション活動の推進
- スポーツ・ツーリズム、スポーツ・イベントの誘致
- スポーツ活動のサポート機能充実

(エ) 地域資源を活かした観光周遊と消費の促進

- 地域の特産品と観光客をつなぐ交流・消費機会の拡大
- 道の駅や直売店等の連携促進による集客率の向上
- 先端IoT 技術等を活用した産業間連携や広域周遊・消費の促進
- アドベンチャーツーリズムなど体験プログラム創出による地域資源の高付加価値化

(オ) 広域周遊を促す交通手段の充実・強化

- 二次交通の多様化と利便性の向上
- 先端ICT 技術等を活用した観光交通支援
- 観光客、住民の利便性、安全性の向上に資する交通ネットワーク基盤の整備

【施策分野】 農林水産業振興

②亜熱帯資源の高付加価値化と稼げる農林水産業づくり

- ・ やんばるの豊かな亜熱帯資源のもと、農林水産業のブランド確立と生産供給体制の強化、品質向上に資する技術の高位平準化により生産物の高付加価値化、販路拡大により稼げる農林水産業を目指す。
- ・ 観光業を中心に IT 産業や他産業との連携強化、循環型農業や担い手の育成に取り組む。

【施策の展開】

(ア) 稼ぐ力を高める生産機能の強化

- 生産性の向上とブランド力の強化
- 農林水産業を支える多様な担い手の育成・確保
- 地域特性を最大限に生かした農林水産技術の開発と普及

(イ) 地場産業の土台となる農林水産業の基盤整備

- 生産性と収益性を高める農林水産業の生産基盤整備
- 先端 ICT 技術等を活用した生産性の向上

(ウ) 地域資源の高付加価値化

- 地域産物の高付加価値化を図る加工機能の充実
- 地域資源の活用・域内循環の創出による地域の活性化
- 観光産業と連携した土産品づくり
- 品質管理の強化と表示の適正化等（GAP、HACCP 対応等）

(エ) 販路拡大と安定供給を支える流通機能整備

- 農林水産物の輸送コストの低減及対策及び総合的な流通の合理化
- 戦略的な販路拡大と加工・販売機能の強化
- 地産地消等による地域産物の消費拡大
- 先端 ICT 技術等を活用した流通・消費の効率化

(オ) モノの流れを円滑化する基盤整備

- 生産物の流通を支える道路・港湾等の基盤整備

(カ) 環境と共生する循環型農業の仕組みづくり

- 自然環境に配慮した持続可能な農林水産業の推進
- 廃棄物、排せつ物の再利用による循環型農業の推進

【施策分野】 情報通信産業振興

③情報通信関連産業の高度化・高付価値化によるDXの推進

- 北部地域の雇用創出に寄与している情報通信産業の更なる振興を目指す。
- 企業誘致やこれまで整備を進めてきたIT基盤の強化、活用により地域経済の活性化と雇用促進を図る。観光産業や農林水産業、産官学との連携強化、DXの推進により、来たるデジタル社会への対応を図りながら地域の「稼ぐ力」の向上に寄与する。

【施策の展開】

(ア) 情報通信技術を活かした地理的不利性の克服と生産性の向上

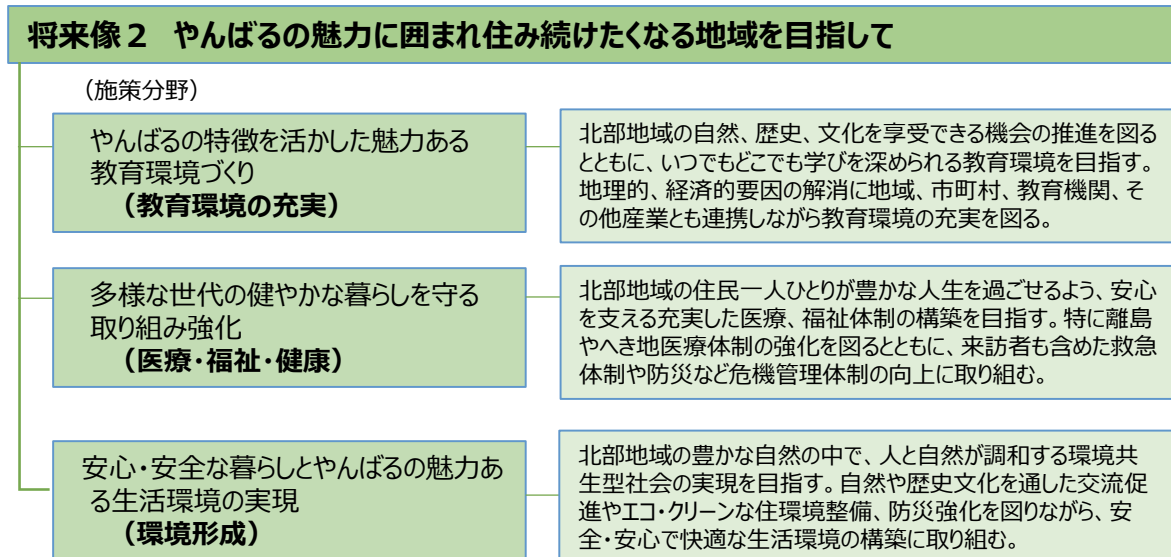
- 情報通信関連産業と他産業連携による新たなビジネスモデルの創出
- 情報通信産業特別地区、経済金融活性化特別地区制度を利用した企業誘致促進

(イ) 最先端情報通信ネットワーク基盤の整備の強化と活用

- 最先端の情報通信技術を活用できるネットワーク基盤の強化と活用、DXの推進。

2) 定住促進施策の方向性

- ・ 施策の方向性については、定住促進の「将来像2 やんばるの魅力に囲まれ住み続けたいくなる地域を目指して」を基に、施策分野、施策の展開を下記にまとめる。



【施策分野】 教育環境の充実

① やんばるの特徴を活かした魅力ある教育環境づくり

- ・ 北部地域の自然、歴史、文化を享受できる機会の推進を図るとともに、いつでもどこでも学びを深められる教育環境を目指す。
- ・ 地理的、経済的要因の解消に地域、市町村、教育機関、その他産業とも連携しながら教育環境の充実を図る。

【施策の展開】

(ア) 基礎学力と地元への愛着を育む教育の充実

- 基礎学力の向上対策
- 自然環境・歴史文化など地域の特徴を活かした魅力的な教育環境づくり
- Uターン、Iターンのサポート体制充実

(イ) 多様な産業を支え働く力を生み出す人材育成

- 社会教育・学校教育の融合によるキャリア教育の推進

(ウ) 地理的、構造的課題の克服

- ICT技術等を活用した教育環境の充実

【施策分野】 医療・福祉・健康

②多様な世代の健やかな暮らしを守る取り組み強化

- ・ 北部地域の住民一人ひとりが豊かな人生を過ごせるよう、安心を支える充実した医療、福祉体制の構築を目指す。
- ・ 特に離島やへき地の医療体制の強化を図るとともに、来訪者も含めた救急体制や防災など危機管理体制の向上に取り組む。

【施策の展開】

(ア) 誰もが安心して暮らし働けるサポート体制整備

- 子育て世代のサポート体制整備
- 医療・保健衛生サポート体制整備
- 高齢者・障がい者サポート体制整備
- 健康・長寿地域を支える健康づくりサポート体制整備

(イ) 離島・へき地への医療・福祉サービスの整備

- 医療・福祉サービスの連携体制整備
- ICT 技術等を活用した医療・福祉サービス環境の充実

(ウ) 危機管理体制の整備

- 複雑多様化する危機管理への体制整備

【施策分野】 環境形成交流・住環境・安心・安全

③安心・安全な暮らしとやんばるの魅力ある生活環境の実現

- ・ 北部地域の豊かな自然の中で、人と自然が調和する環境共生型社会の実現を目指す。
- ・ 自然や歴史文化を通じた交流促進やエコ・クリーンな住環境整備、防災強化を図りながら、安全・安心で快適な生活環境の構築に取り組む。

【施策の展開】

(ア) 地域内外の多様な世代が自然や文化を通して交流する拠点づくり

- 地域のコミュニティの活動支援
- コンパクトで多機能なコミュニティサービス機能の確保
- 多様な人々が集い交流する場の形成

(イ) やんばるの特徴を活かした魅力ある住宅環境整備

- 移住・定住を促進する住宅供給

- 上下水道の整備
- 地域特性や社会環境の変化に応じた都市公園の整備更新
- 安定的なエネルギー供給体制の確保
- 再生可能エネルギーの導入による環境モデル地域の形成

(ウ) 人の流れを創る計画的な生活基盤の整備

- 地域特性や社会環境の変化に応じた陸上交通基盤の整備
- 地域のニーズをふまえた港湾施設の整備

(エ) 地域住民から来訪者まで安心・安全を支える基盤整備

- 資源循環と効率的な廃棄物処理の推進
- やんばるの自然、景観に配慮した水辺環境の創出
- やんばるの美しい砂浜の創出と地域の特性に応じた海岸整備
- 社会基盤の防災・減災対策
- 社会基盤の長寿命化対策
- 緊急時における避難対策

3) 横断的な取り組みの方向性

- 施策の方向性については、「Society5.0、with コロナ、SDGs、DX など新しい社会潮流と技術革新への適応、トータル・コーディネート等 仕組みづくりのための横断的な取り組み」を基に、施策分野、施策の展開を以下にまとめる。

【横断的な取り組み】

Society5.0、with コロナ、SDGs、DXなど新しい社会潮流と技術革新への適応、
トータル・コーディネート等 仕組みづくりのための横断的な取り組み

①SDGs への取り組み（持続可能な社会の形成）

- 持続可能な開発目標（SDGs）は、「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現を目指して、経済・社会・環境を巡る広範な課題解決に統合的に取り組むものである。持続可能なまちづくりや地域活性化に向けて取り組みを推進するに当たっても、SDGs の理念に沿って進めることにより、政策の全体最適化や地域課題解決の加速化という相乗効果が期待できる。
- 沖縄県の SDGs に関する万国津梁会議より報告された「沖縄 SDGs 実施指針(案)」（R2.10）においては、本県における SDGs 推進の基本理念を「平和を求めて時代を切り拓き、世界と交流し、ともに支え合い誰一人取り残さない、持続可能な『美ら島』おきなわの実現」とし、その達成に向けた取り組みの柱として、2030 アジェンダ「5 つの P」に即して 12 の優先課題を設定している。（次ページ参照）
- やんばる地域は、自然環境と共生してきた生業やユイマールの精神なども SDGs につながるものである。これらを背景に、北部振興事業の推進においても SDGs に沿った施策を推進する。

(ア) 持続可能な社会の形成に向けた SDGs の理念に沿った地域課題の解決

- SDGs の理念に沿った事業の推進

図 4-1 万国津梁会議より報告された「沖縄 SDGs 実施指針(案)」(R2.10)

<p>(People 人間)</p> <ul style="list-style-type: none">① 性の多様性(LGBTQ*2 等)、障がいの有無、国籍など、互いの違いを認め合い、一人ひとりが大切にされ、あらゆる場所で活躍できる社会の実現(多様性の尊重、個人の尊厳)② 医療・福祉の充実、健康長寿と生きがい、子どもを貧困から守る子育てしやすい暮らし③ 地域への誇り(しまくとぅばの普及・推進等)と夢・目標をもてる学びの確保、教育の充実 <p>(Prosperity 繁栄)</p> <ul style="list-style-type: none">④ 基幹産業として持続可能で責任ある観光(サステナブル/レスポンシブル・ツーリズム)の推進、観光との連携・相乗効果等も活用した産業振興(農林水産業におけるブランド化等)、県経済の基盤となる安定的な雇用⑤ 日本とアジア・太平洋の架け橋となる物流・情報・金融の拠点⑥ 気候変動に適應する強靱なインフラと交通網の整備 <p>(Planet 地球)</p> <ul style="list-style-type: none">⑦ 多様な生物・生態系や自然遺産を含む自然に囲まれた環境の保全、エコアイランドの実現、自然と調和したライフスタイル <p>(Peace 平和)</p> <ul style="list-style-type: none">⑧ 基地から派生する諸問題の解決の促進、平和を希求する沖縄として世界平和への貢献・発信⑨ 共助・共創型の安全・安心な社会の実現 <p>(Partnership パートナーシップ)</p> <ul style="list-style-type: none">⑩ ユイマール(相互扶助)の継承、人の和・地域の和⑪ 地域・世代・分野・文化等を越えた多様な交流と連携の創出⑫ 世界の島しょ地域における技術・経験の共有と国際貢献・グローバルパートナーシップ
--

*2 LGBTQ Lesbian(レズビアン)、Gay(ゲイ)、Bisexual(バイセクシャル)、Transgender(トランスジェンダー)、Questioning(クエスチョニング)/Queer(クィア)の略。

②Society5.0 の推進 (先端技術による課題解決)

- Society 5.0 の実現に向けた技術（以下「未来技術」という。）は、自動化により人手不足を解消することができるとともに、地理的・時間的制約を克服することが可能であり、便利な移動・物流サービス、オンライン診療や IoT を活用した見守りサービス等、高齢者も含め、利便性の高い生活を実現し、地域コミュニティの活力を高めることができる。未来技術は、住民の生活の利便性と満足度を高める上で有効であり、地域の魅力を一層向上させることができる。
- そして、どの地域にも未来技術の活用のチャンスがある。特に、課題を多く抱える地方においてこそ、導入を進めることが重要であることから、地方における未来技術の活用について強力に推進する。
- やんばる地域の抱える地理的不利性や中山間地域、離島地域などの課題解決を含め、未来技術の導入は単に直面する課題に対処するだけでなく、モノやサービスの生産性・利便性を飛躍的に高めるとともに、新しいサービスを生み出し、新たな雇用を創出するなど産業や生活などの質を高める力があり、社会・経済双方の面から地域を一層豊かで魅力あるものとし、それが人を呼ぶ好循環を生む起爆剤となり得るものである。さらに未来技術は、様々な地域の特性に応じた形で活用できるものであり、どの地域にも未来技術を活用するチャンスがある。具体的な目標を明確にししながら、DX を定着させることで、地域課題の解決、地域の魅力向上を図り、地域における Society5.0 の実現を推進することが重要である。

(ア) IoT 技術、AI 等の先端技術を活用した課題解決

- 未来技術の活用を可能とする情報通信基盤等の環境整備
- 未来技術の導入促進
- DX（デジタル・トランスフォーメーション）の推進
（農林水産業、サービス産業、教育、生活、医療、交通、公共・社会基盤、新たな生活様式）

(イ) 先端技術を活用する人材の育成

- 未来技術を活用し地域の課題解決に活かすことのできる人材の育成
- データ活用基盤の整備

③トータル・コーディネート機能創出 (産官学連携)

- 北部振興事業では、「やんばるは一つ」の考え方のもと、振興戦略を推進するためのトータル・コーディネート機能の創出が必要とされてきた。
- 今後は、SDGs を軸とする持続可能な開発目標、Society5.0 の実現に向け AI や Iot など急速に進む先端技術を駆使した技術革新、すなわち DX（デジタルトランスフォーメーション）などへの適応が必要である。さらに、with コロナ、アフターコロナの新たな生活様式、経済の V 字回復に向けて専門家や関係機関が連携した横断的な取り組みで、多様な人々の想像力、創造力を融合し

課題解決を図っていく必要がある。

- 一方で、政府が進める地方創生においては、観光地域経営を担うDMOと地域商社が両輪となって、地域の商品・サービスを一元的に域内・域外の市場へと拡大させ、地域全体の平均所得向上と若年層の流出抑制を実現するとして、地域のブランド化や稼げる地域づくりのために、DMOや地域商社のようなコーディネート機能の必要性を上げている。
- これらのことから、北部振興事業の推進にあたっては、12市町村が一体としなる客観的な視点から、また、かじ取り役となって進めていくトータル・コーディネート機能の重要性はますます高まっている。

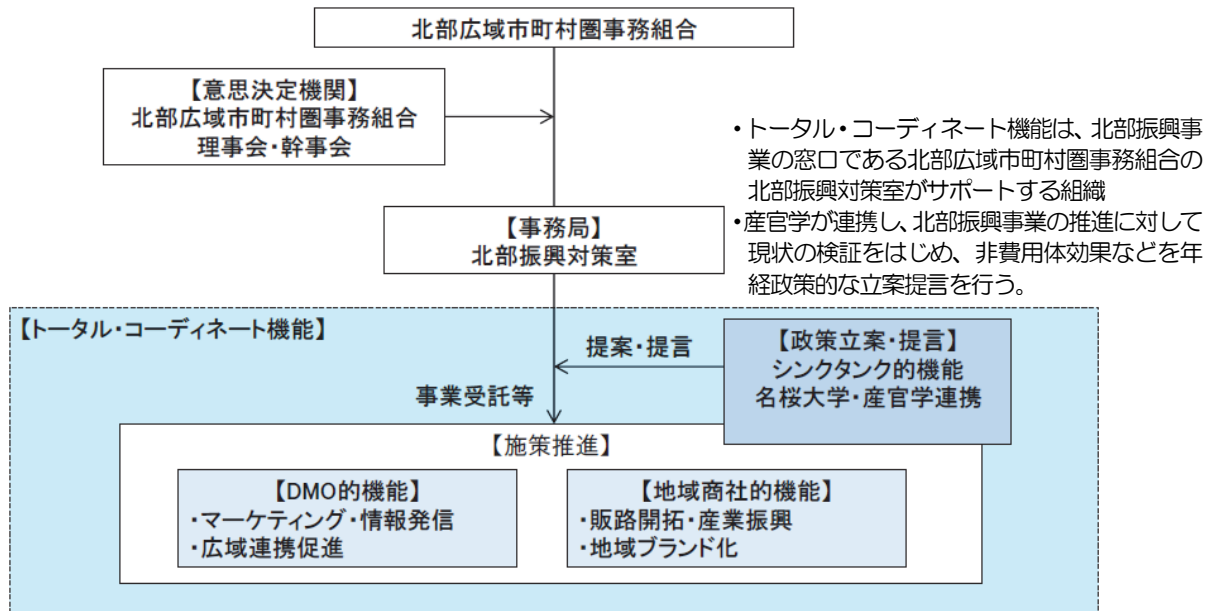
(ア) 産官学の連携によるシンクタンク機能の創出

- 産官学連携によるシンクタンクの機能創出
- データーサイエンスを通じた北部振興の評価・検証及び政策立案機関の検討
- 未来技術の導入・活用に関する立案・提言等
- 地域をリードする人材の確保及び育成

(イ) 広域連携を促進するコーディネート機能の創出

- 地域連携DMOなどマーケティング・ブランディングの推進機能
- 販路開拓・地域経済循環を活性化する地域商社機能

図 4-2 トータル・コーディネート機能の位置づけとイメージ案



(1) 北部地域振興戦略(骨子)

北部地域新振興戦略(骨子)

【1. テーマ】

やんばるの多様な資源の好循環で繋ぐ持続可能な地域の創出

- (解説)
- 「やんばるの多様な資源」⇒やんばるの自然、ひと、文化、地域、産業、経済、観光、情報資源等、多様で豊かな資源を表す。
 - 「好循環で繋ぐ」⇒地域資源に立脚した稼ぐ力により地域経済を好循環させ所得向上を目指し、これにより生み出される、生活の豊かさ、心の豊かさを次世代まで繋げていくことを表す。
 - 「持続可能な地域の創出」とは、やんばるの自然といつまでも共生できる地域を目指し、1・2市町村が一体となり、北部地域の未来のために主体的な継続的な取り組みを行っていくことを表す。

【2. 基本方針】 期間：令和4年度～令和13年度の10年間

(1) 産業振興

- 市町村民所得の向上を目標とした地域の稼ぐ力と地域内経済循環の活性化を目指す

(2) 定住条件の整備

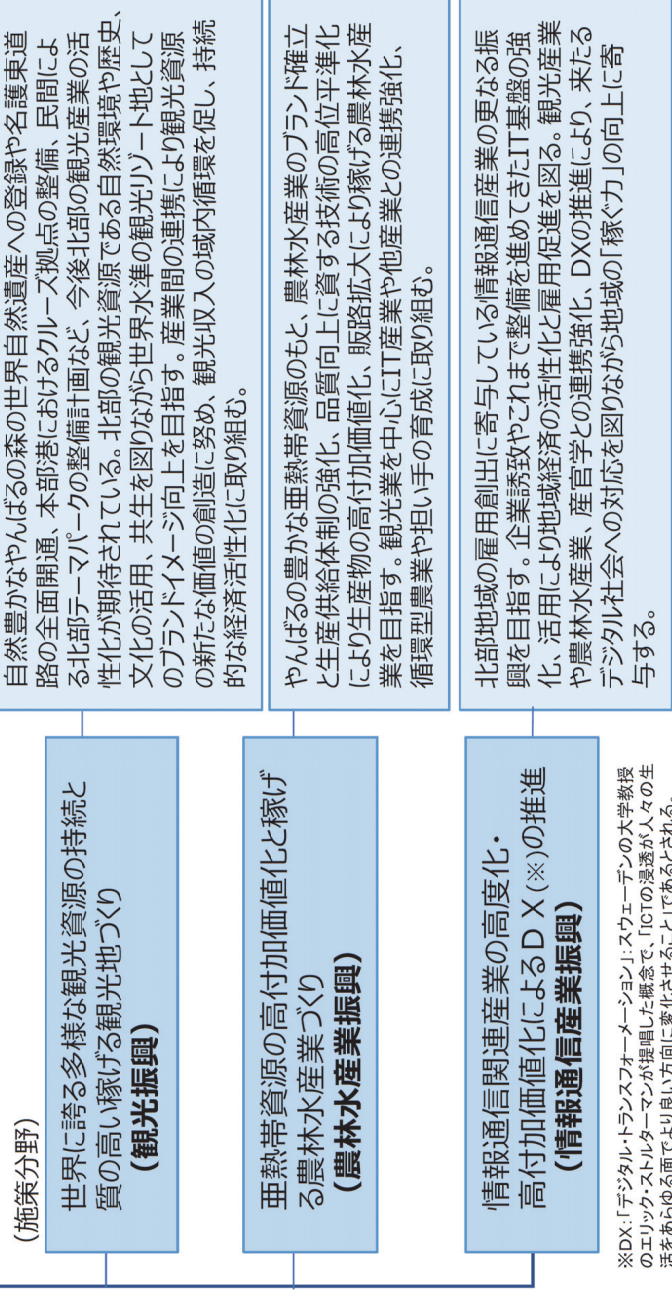
- 定住人口15万人圏域を目標とした人の流れの創出と安全・安心な住環境の充実を目指す

【横断的な取り組み】

Society5.0, withコロナ, afterコロナ, SDG's, DX (※) など新しい社会潮流と技術革新への適応、仕組みづくりのための横断的な取り組み

【3. 施策の方向性】

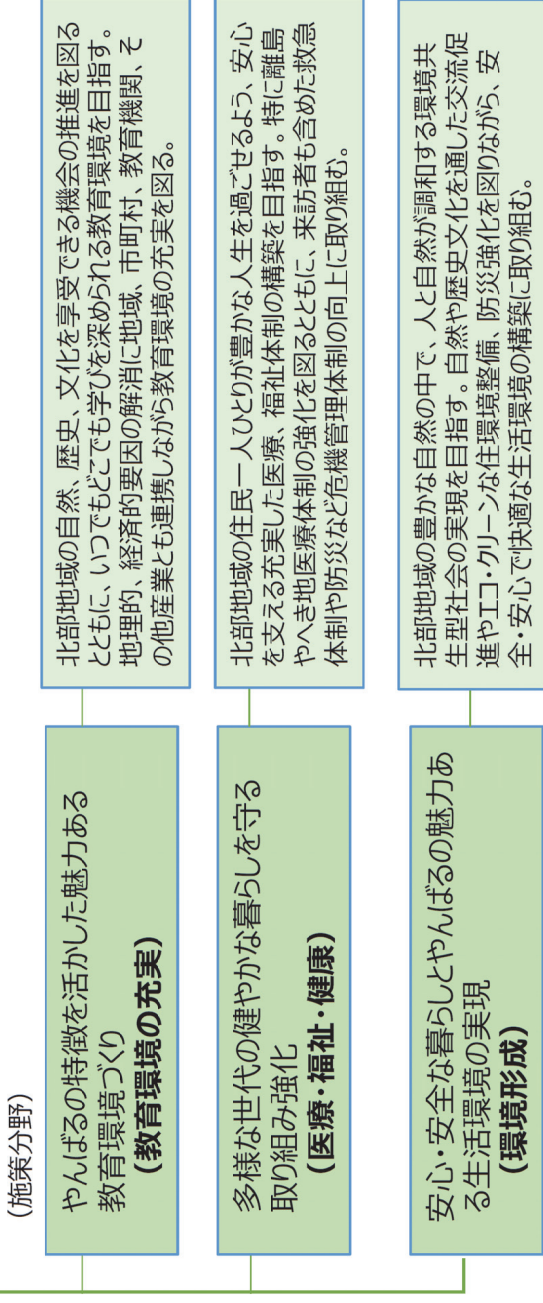
将来像1 稼ぐ力で活力を生み出す持続可能な地域を目指して



※DX:「デジタル・トランスフォーメーション」:スウェーデンの大学教授のエリック・ストルターマンが提唱した概念で、「ICTの浸透が人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させること」とあるとされる。

Society5.0, withコロナ, afterコロナ, SDG's, DX (※) など新しい社会潮流と技術革新への適応、仕組みづくりのための横断的な取り組み

将来像2 やんばるの魅力に囲まれ住み続けたい地域を目指して



【横断的な取り組み】

Society5.0, withコロナ, afterコロナ, SDG's, DX (※) など新しい社会潮流と技術革新への適応、仕組みづくりのための横断的な取り組み

(2) 会議開催経緯

① 委員会名簿

【理事会】

氏名	市町村名及び職名	役職
渡具知 武豊	名護市長	会長
知花 靖	国頭村長	
宮城 功光	大宜味村長	
當山 全伸	東村長	
久田 浩也	今帰仁村長	副会長
平良 武康	本部町長	
仲間 一	金武町長	
當眞 淳	宜野座村長	
長浜 善巳	恩納村長	
島袋 秀幸	伊江村長	
伊礼 幸雄	伊平屋村長	
前田 政義	伊是名村長	

【策定委員会】

氏名	市町村名及び職名	役職
金城 秀郎	名護市 副市長	会長
宮城 明正	国頭村 副村長	
島袋 幸俊	大宜味村 副村長	
宮城 調秀	東村総務財政課長(※副村長不在のため)	
比嘉 克雄	今帰仁村 副村長	副会長
伊野波 盛二	本部町 副町長	
池原 均	金武町 副町長	
下里 哲之	宜野座村 副村長	
外間 毅	恩納村 副村長	
名城 政英	伊江村 副村長	
金城 時正	伊平屋村 副村長	
奥間 守	伊是名村 副村長	

【専門部会名簿】

氏名	市町村名及び職名	役職
宮城 浩二	名護市 企画政策課 課長	会長
宮城 明正	国頭村 企画商工観光課 課長	
福地 亮	大宜味村 企画観光課 課長	
平田 尚樹	東村 企画観光課 課長	副会長
田港 朝津	今帰仁村 企画財政課 課長	
屋良祖 良美	本部町 企画商工観光課 課長	
伊藝 勲	金武町 企画課長	
比嘉 昭彦	宜野座村 企画課 課長	
喜久山 隆	恩納村 企画課 課長	
内間 常喜	伊江村 政策調整室 室長	
高良 睦	伊平屋村 総合経営企画課	
神田 宗秀	伊是名村 企画政策課長	

②各種会議開催経緯

【理事会】

開催回数	開催日	開催場所
策定委員会設置議決	令和2年2月14日	北部会館
第1回理事会	令和2年8月14日	北部会館
第2回理事会	令和3年8月11日	北部会館

【策定委員会】

開催回数	開催日	開催場所
第1回策定委員会	令和2年7月2日	北部会館
第2回策定委員会	令和2年8月25日	Web開催
第3回策定委員会	令和2年12月25日	北部会館
第4回策定委員会	令和3年3月29日	北部会館
第5回策定委員会	令和3年6月1日	Web開催

【専門部会】

開催回数	開催日	開催場所
第1回専門部会	令和2年7月20日	北部会館
第2回専門部会	令和2年8月20日	Web開催
第3回専門部会	令和2年11月17日	伊平屋村役場
第4回専門部会	令和3年2月26日	北部会館
第5回専門部会	令和3年5月26日	北部会館